

## 会議録

会議の名称	第2回 西東京市産業振興マスタープラン策定委員会
開催日時	平成21年11月16日 16時00分から18時20分まで
開催場所	イングビル第3、第4会議室
出席者	委員：板橋、奥田、水谷、野見山、櫻井、村田、海老沢、田中、本橋、斉藤 事務局：西東京市生活環境部産業振興課 大和田、森野、杉野、宮坂 コンサルタント：2名
議題	(1) 第1回西東京市産業振興マスタープラン策定委員会会議録について (2) 産業各分野の課題、問題点の整理について (3) その他
会議資料の名称	資料1 第2回西東京市産業振興マスタープラン策定委員会資料 資料2 西東京市産業振興マスタープラン策定委員アンケート結果一覧 資料3 産業各分野の課題、問題点の整理表
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録

### 会議内容

#### (1) 第1回西東京市産業振興マスタープラン策定委員会会議録について

事務局：

先日お送りした会議録につきまして期限までに訂正等の連絡をいただいておりますので、お示ししたとおり公開させていただきます。

#### (2) 産業各分野の課題、問題点の整理について

事務局：

議題に入る前に、お知らせすることがございます。第1回資料について、資料5の12ページ一番下「市も取り組んでいますが、目立った成果を見せていません。」の記述を「市も取り組んでいます。しかし、新産業の創出や異業種交流の取り組みとしては目に見える成果が出てきていない」と訂正します。

委員：

前回の資料に、「創業支援・経営革新相談支援センター」という名称があげられていたが、「経営革新相談支援センター」というのはいったいどこにあるのか？センターに

聞いても、「知らない」と言われたし、市報にも、「創業支援相談センター」という名称で載せられている。そんな組織はないのに、なぜ、資料にその名称が載せられているのか？

事務局：

経営革新なども含めて、幅広い支援に当たるという趣旨で、今年4月に「創業支援相談センター」から名称変更をした。センターや企画課（市報）との相違は、関係者の意志の疎通がうまくいっていないがためであり、今後、きちんと改善を図っていきたい。

委員：

振興策を検討する前提として、まず先に東大農場の話を聴くべきだ。相手のことをわからずに話しても、しかたないのではないか。

- ・今後の東大農場の動きは西東京のプラスになるのか？マイナスになるのか？
- ・農地としての利用を継続する意志があるのか？今後の利用について意思確認を。
- ・都市と農業の共生するまちづくり事業の検討との関係からも重要。
- ・上の人とだけでなく、実務レベルの人とも話すべきだ。

委員：

東大農場がダメというかもしれないけど、とにかく検討してみてもどうか？

委員：

まずは案を考えて、それから東大にはかるといってもしかたないのでは？

委員：

こちらからヒアリングに行くよりも、むしろこの場に来ていただいて、話していただくチャンス設けるべきではないか？

委員：

なぜ空き店舗のままにしておくのか？経営を継続するのか、しないのか？商店街のことも考えて、店をやりたい人に貸してはどうか。

委員：

商店街で空き店舗をそのままにしておくのは、商店街に対して失礼だ。

委員：

商店街の空き店舗の実態調査をするべきではないか？空き店舗は使える材料。

委員：

2階に店主が住んでいることも多く、それぞれ難しい事情があって、なかなか貸し出せないのが現状だ。個人対個人で貸すのも難しい。空き店舗を活用するためには、やりませんか？のシステム、貸し出すしくみや、踏み出すための刺激といったものがないとなかなか動かない。

委員：

すべての商店街を存続させようとしても、実際は無理があると思う。残すところと消えてもいたしかたないところというメリハリも必要では？

委員：

商店街をどうするかを考えるのか？商店をどうするかを考えるのか？どちらかにわとりでどちらが卵か？そもそも、個々の商店がだめになるから、結果として商店街がだめになる。個々の商店をどうすべきか考えるべき。商店街ありきでないのでは？

委員：

刺激的な1店、商店街が元気になるきっかけになる店ができるとうい。

**ワークショップにおける意見の詳細は、ワークショップの意見を一覧にまとめた別添表を参照。**

### **農業関連**

- ・ 体験型市民農園をすすめる。東大農場で体験農園をするとよい。
- ・ 農協にチャレンジショップをつくとよい。
- ・ 農産物残渣や食品残渣、落ち葉を活用した堆肥化、廃食油を生成したBDFをごみ収集車やトラクターなどの農機具へ活用するとよい。

### **ものづくり関連**

- ・ 水道料金の高さが原因で出て行った企業もある。優れた独自の技術をもつ中小企業をしっかり支援して逃さないことが必要。
- ・ 大企業が去り残った下請け企業はよそで営業（仕事をもらわない）しないといけないので、支援があるとよい。
- ・ 市は製造業の引止めに予算を出せない状況なので、残ることができた独自の技術をもつ中小企業の情報の発信をして、市民にも知ってもらい、広域からの受注につなげるとよい。
- ・ ベンチャー支援をすべきだ。

### **商店街・商業関連**

- ・ 地域社会・生活の安心分野の重視（医療、福祉、子育て・高齢者支援、コミュニティの核づくり）の動きがあり、これらの施設を設置することを支援する制度・事業ができてきた。
- ・ コミュニティビジネス支援の動きを活用して、ソーシャルビジネス、ライフスタイルビジネスを展開してはどうか？
- ・ 空き店舗を活用してコミュニティ施設を設置してはどうか？
- ・ 刺激的な1店、商店街が元気になるきっかけになる店をつくる。

### **サービス・観光ほか**

- ・ 漫画家を調査し、漫画家の市内ネットワークの構築を図り、産業にしていく。
- ・ 市内に30以上あるアニメスタジオの活用をしてはどうか。キャラクターづくりに

飛びつくのは、あまりに短絡的。例えば、動画技術の地元活用、ホームページの強化に活用するなど、資源活用策を考えてはどうか？

- ・ コンテンツ産業を振興するとよいのではないか？

#### 横断的な取り組み

- ・ 青果店の欠落している商店街を手はじめに、空き店舗を利用した「めぐみちゃん売場」として展開するとよい。
- ・ チャレンジショップの一環として（青果店を）やっては？
- ・ 青果店の一角を利用した「めぐみちゃんコーナー」の展開をしてはどうか？
- ・ 商店街の商店に対し、農家側からは農産物を入れづらい。
- ・ 場内市場で仕入れるほどの規模の小売はほとんどない。小売は市場に出資しているので、市場から購入せざるを得ない状況があることも踏まえる必要がある。
- ・ 給食での地場野菜の充足率が低い。地場野菜の活用をすすめるため、少ししか出荷できない農家の農産物を集めて、中間加工して、一括出荷するしくみをつくる。
- ・ 地場産の定義は？1つの市で独立してはできない。周辺も含めて「地場産」と捉え、周辺と連携していくべきだ。
- ・ 給食食材の仕入れを担っている栄養士に理解してもらう必要があるのではないかと。市場に乗りにくい規格外の地元農産物を仕入れてもらいたい。
- ・ 給食に食材を納めている小売（八百屋や肉屋など）との競合も配慮すべきだ。
- ・ 周辺の区市との連携も考えるべき。1つで独立しているのではない。

#### (3) その他

##### ヒアリングについて

事務局：

ヒアリング先について、提案はありますか？

委員：

商工会、東大農場などでどうか？

委員：

本日の結果をもとに、きめ細かくお話をうかがうとよい。

委員：

できるだけ委員も同席して、行いたい。

事務局：

ヒアリング先や日程については追ってご連絡します。

次回日程調整 委員間で話し合い

事務局：

次回は平成22年1月27日（水曜日）午後4時～ 保谷庁舎で開催します。